

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

地券請求詞訟一件書

被告之部

経済学部
研究室
5
1226



38511

兵庫縣下第ニ區

兵庫新在家町寄留

高知縣士族

被告代理人

中西省雄

地券請求訴ノ答

右原告代言人京都市平民大藤高敏ヨ
リ地券請求ノ儀訴出奉月十二日御呼

出ノ御狀拝見仕取調ノ儀ニ付御日延
願置候処今日御申上候

右地券ハ各村実地所有致シ候ニ因
テ申請候者ニ御座候

抑右山ハ往古ヨリ津田藤坂杉穂谷
尊延寺五ヶ村ノ所有立會ニ候処長
尾村ハ五ヶ村山役采ノ内一々一
石一斗三升、差出六ヶ村立會ニ

相成尔後沿革ニ依テ分割限界相立
全ク一部分、ノ所有ト相成下草
ニ於テハ彼此ノ別ナリ互ニ立合前
取ニ相成居候モノニ御座候

中古右山ヨリ流レ落候土砂苗ノ為
メ立木伐取ノ儀御差苗ニ相成猶苗
木植付其他流砂ノ防可致様被仰付
候処右土砂苗普請苗木植付芝伏也

ニ至ル迄一切右六ヶ村分界内各自
處分致シ春秋兩度土砂拭役御見分
等モ各村へ御立込ニ相成勿論右一
切入費仕拂モ亦各村限りニテ相辨
シ且追々立木伐取石割取等其他一
切ノ願同届ニ至ル迄各一村限勝手
ニ仕り決テ他村^ニ關係不仕固ヨリ亦
他村ヨリ限制スル事無之各村同

等ノ權ヲ以テ處分致シ候

右山後米ノ儀ハ津田村高ニ錯込有
之候ヲ以テ官廳へハ同村ヨリ相納
候へ共固ヨリ五ヶ村ヨリ上納致シ
候者ニ御座候故即年々同村へ會シ
取扱仕入費等斗弄相立勘定帳ヲ作
リ五ヶ村連印仕候事ニ御座候
長尾村之儀ハ其実已ニ同等ノ權利

ヲ有レ候ニ至リ候テモ古ヨリ仕来
ノ終ニテ右山役米上納取扱斗量等
ノ埒席ニ立會不申候

右ノ次第ニ付各村同等ノ權有之唯
津田村ノ高ニ錯込有之候而已ニテ
決シテ津田村ニ於テ惣山所有ノ權
ハ無御座候

右ノ通り各村分界相立各村ノ所有

ト相成候儀ニ付明治五年地券御發
行ノ節各村一曰會合致シ高後ノ上
右既ニ各村別區ノ所有ト相成有之
ニ付各村ニ地券可申請尤其内穗谷
村ニ有之三宮ハ元五ヶ村ヨリ崇メ
候宮ニ候故石境内ハ旧ニ依テ五ヶ
村立合ト變儀一決致ニ候

石ノ通り各村表後一決仕候ヨリ各

村ヨリ出願仕リ地券申請候儀ニ御座候

右ノ通古来ヨリ分取相立各村所有ノ権有テ各村ヨリ地券可申請条理ニ依リ既ニ各村表儀ニ於テ確定致シ候者ニ付弥各村別區所有ニ相違無之儀判然ニ御座候依テ津田一村ニ地券可申請条理無之儀ニ御座候

右ノ通りニ御座候

明治八年十二月廿九日

中西看雄

兵庫縣下庄二區

兵庫新在家町寄苗

高知縣平民

差添人

沼義満

前書之儀私共ヨリ御答可申上苦ニ御座^候差支ノ儀有之中西看雄ニ代言相

頼候然ル上ハ中西肴難ヨリ申上候事
柄元ニ御受申上候事柄共後日至リ私
共ヨリ異後申上間敷候為後澄奥印仕
候

明治八年十二月廿六日 坂縣下河内國美作區

四小區支野郡穂谷村總代

副戸長

岡本新六

曰尊延寺村總代

戸長

深尾治郎八

曰杉村總代

副戸長

市村藤藏

曰藤坂村總代

副戸長

猪熊九太郎

日長尾村總代

副戸長

寺嶋文次郎

堺縣参事兼七等判事

吉田豊文殿

原告津田村ヨリ係ル訴訟ノ儀ニ

就キ陳述書

第一條

土地券各村ニテ申請候ハ即チ明治五
年地券御發行ノ際各村聚會協議ノ上
確定セシ者ニ候

此衆議ヲ為シタルハ唯其地券可申請

ノ手順條理ノミニテ其当ナニ然カリ
ヘキノ實際條理有テ確定施行セシ者
ニ候

既ニ右之通ナル上ニ此確定ヲ以テ基
礎トシ之ヨリ以前ノ事ハ畢竟問ハス
レテ可ナル者ニ候

第二條

然リト雖モ其確定セシ原由乃チ所謂

實際ノ條理ヲ奉以テ其ノ確定セシ者
ノ弥確乎タル所以ヲ明カニサレ可カ
ラス候

即右山ハ一腕ニ連続セシ者ニ非ス各
村區畫境内ニ散在セシモノニシテ各
村別區所有ノ權ヲ有シ所有ノ義務ヲ
屬シ各村別區支配ノ權ヲ行ヒ義務ヲ
盡シ政府地頭ヨリモ亦其御扱ニテ諸

願届等モ直ニ指示シ御指令等モ亦御
直達其他惣テ一切ノ事一村別區ノ處
分致シ且ニ他ニ關係致サス候

右山役米ニ至テハ合シテ津田村ニ借
ニ有之ト雖モ其上納ノ際ニ当テハ五
ヶ村立會ヲ以テ且ニ勘定上納ノ手數
ヲ為シ決シテ津田村一分ニテ支配ノ
權ヲ有シ處分スルニ依ス乃チ各村別

區所有ノ權及ニ義務各村別區支配ノ
權及ニ義務ヲ一處ニ集メ五ヶ村ニテ
擔当スル者ニ候

但シ長尾村ハ猶旧ニ依テ上納勘
定ニハ立會ハス候

之二依テ地券御發行ノ際唯其地券申
受ニ就テノ手続條理ヲ議シ即チ山役
米ハ津田村ニ結ニ有之事ヲ明カシ各

村ニテ可申受事實際当然ノ條理也ト
決定セシ者ニ候

第三条

依テ今般生訴ノ通津田村一村ノ所有
ニ非ス勿論五ヶ村へ小作請ニ致セ
シ者ニ非ル事明白ナル者ニ候
猶又別牒辨論書ニ於テ増々明瞭ナル
可クト奉存候

明治八年三月十二日 高知縣士族

被告代人 中西省雄

辨論書

一凡ソ訴訟ハ都テ其已レノ或ル權利
ヲ侵害セラル、事アルヲ以テ止ム

ヲ得サルニ出ルモノナリ故ニ其訴
ヲ為サ、ル以前ニ其訴ル事ノ大體
主意ハ頗ニ定リ其證據タル者モ亦
自然委ク備リ有ル可キ事勿論ナリ
依テ其已テニ訴ヲ為セシ以上ニ於
テモ其大體主意ノ変スル事有ル可
カラス

一而シテ今般津田村ヨリ訴フル所ノ

大體主意ハ

津田村高内ノ所有山ナリ

其證據タル者ハ免狀及ニ管済目

録ノ通公租上納スル事

一次ニ被告五ヶ村ハ所有山無キ力故

ニ小作清ニ致セシ者ナリト云フ事

ナリ

一之ニ對シ一般普通ノ例ヲ以テ辨論

セシニ凡ソ其村高内ニ有之ト云フ
ヲ以テ其村ノ所有タル澄抛トハ決
シテ為ラサルナリ

何トナレハ石高ハ所有主何人タル
ニ関セス一體其地ヲ押へ領主所得
ノ締リヲ為スカ為ナリ

所有主ハ其地ノ廣狹租税ノ多寡ニ
論ナリ即チ其実地ヲ所持スル者ナ

リ

而シテ其村内ノ地ヲ其村ニテ所有
スル者アリ他村ノ所有スルモノア
リ

其村高内ニ有之地租ハ其村ヨリ官
廳へ差出スヘキハ当然ノ手續ナリ
従テ皆済目録等モ其村ニ下ルヘキ
者ナリ

一右之通普通ノ例ヲ以テスラ猶此ノ
如ク石高ト所有主トハ全ク各別ノ
者ニシテ決シテ証拠ト爲ラサル事
明カナリ況ンヤ旧来明確ナル者有
テ明治五年ニ確定セシ者ヲヤ

一次ニ申立ル所ノ小作清ノ事ニ至テ
ハ其證據有ルニ非ス全ク想像ニ出
タルモノナリト依テ更ニ辨ヲ俟タ

ス小作受ニ非ルヲ明ナリ

一既ニ小作受ニ非ルニ至レハ之ヲ以
テモ猶其津田村一分ノ所有ニ非ル
ヲヲ証スルニ足ル

右之通り辨論仕候間原告代言人ニ
於テ此上如何ノ申立有之候哉御審
問被成下度奉存候

明治八年十二月十二日

被告代理人 中西有雄

堺縣參事兼七等判事

吉田豊文殿

明辨書

各村別區支配所有之事

第一條

古來各村境界判然タル事

一 脈連筑ノ山ニ非ス各村ニ散在
セル事

各村ノ境界在テ各村独自ノ支配地内

ニ在ル所ノ山其各村ノ山ト云ハサル
ヲ得ス即其村存ニ在ルモノ其村ノ所
属ト云ハサルヲ得ス

第二條

土地所有ノ權アレハ必ス其義務アリ
土地支配ノ權アレハ必ス其義務アリ
權ト義務トハ影ノ形ニ放ケルカ如ク
相牽連シテ離レサルモノナリ

即義務ナル者ハ權ヨリ生スル者ニシ
テ又事業ニ顯ハル者ナリ故ニ其事
業ヲ掌ケ即義務タルノ実跡ヲ見認セ
ハ之ニ因テ其權ノ有ル所自ラ明カナ
ルニ至ルヘシ

支配ノ事ニ至テハ皆事業ニ属スルカ
故ニ其權ト義務ト分別スルヲ甚タ難
シ一ノ所為ヲ以テ權ト云モ可ナリ又

義務ト云モ可ナルカ如シ然ルニ其為
ス所ノ義務ハ即支配ノ權ニ基キ其支
配ノ權アルカ故ニ其當サニ為サ、ル
ヘカラサルノ義務ヲ尽スモノタリ
然レニ成ルヘキカ權ト義務トヲ分
別シ兩ナカラ其実跡ヲ擧テ弥明確ナ
ラシメント欲ス

一所有ノ權ヲ有スル事

山中ヨリ生スル一切ノ利益ヲ

自由ニ所得トナス

一所有ノ義務ヲ歸ム事

又一緊要タル山役米ヲ上納ス

一支配ノ權ヲ有スル事

一切ノ願届一村限ニ之ヲ為シ

他村ニ管制セラル、ナク官

府ヨリモ亦直達ナリ

禁令ヲ一村ニテ畏諾ス

一支配ノ義務ヲ尽セル事

右一切ノ願届ノ其実ヲ取行ヒ

夫々ノ處置ヲナス

禁令ヲ守テ監督ヲナス

五ヶ村^{ハ長尾村ニ除ク}於テハ山役采

手数ヲナス

第三條 土砂苗ノ事

土砂苗ノ為メ山内立木伐取ヲ禁セラ

レタリ

猶木苗植付ヲ申付ラレタリ^{山内ニ樹木ヲ植ル}

^{ハ当然也然レハ其植ルモ之ヲ伐取ル可カラサレハ何ノ益力有ニ故ニ植付}

^{ノ事義務ニ属ス}

柵ヲ結ヒ堤ヲ築キ一切ノ普請ヲナス

事

芝伏セヲナス事

此山ヨリ土砂ノ流レ落ルヲ以テ世ノ
公ノ害トナル故此此流砂ノ防キヲ
為スヘキ様嚴シク申付ラレタル者ニ
シテコレ乃山ニ就テ為サハル可カラ
サル当然ノ義務ナリ

此義務ヲ為スヤ所有ノ權ニ基リ所ナ
リ所有ノ權ナクシテ何ソ此義務ノ生
スルヲ有ンヤ

是即所有ノ權有テ其義務ヲ尽セル
明カナリ

右土砂田ノ事ニ係ル一切ノ所ヲ統
轄作配シ届清書ニ至ル迄一村限ニ之
ヲ為シ御達御見分亦一村限ニテ全ク
独立ノ處分別區ノ御扱ナリキ
是即一村支配ノ權有テ其義務ヲ施セ
シテ明カナリ

之ニ及シテ津田村ニ於テ他ノ各村
ノ山ニ付テ此所有ノ義務ヲ屬マス
支配ノ義務ヲ尽サス全ク抛棄セリ
是其故何ソヤ固ヨリ分界通り各村
ノ支配所有ナルヲ以テナリ

又四條 山内ヲ荒レ樹木ヲ伐

取ル事有レハ之之咎ムル事

他村ノ者 津田村等ヲ指ス 来テ山内ヲ荒レ樹

木ヲ伐取ル_ル有レハ之ヲ咎メ且之ヲ
訴ル_ル勿論其所有支配ノ權ナケレハ
能ハサル_ルナリ他村ノ者亦服ス可カ
ラス官府モ亦之ヲ受理スル_ル理ナシ
其之ヲ咎ムル_ルナスノ理由ハ

一已カ所有物ヲ取ラ_ルト云フ

丁

一已カ所有支配ノ山内ヲ犯サル

ト云フ事

一禁令ヲ守山内取締ノ責任アル
事

又三條ノ原由ニ至テハ其山管轄支配
ノ權ナケレハ此權ヲ有スヘカラス又
此義務ヲ負フヘカラス

若シ其山内ニテ伐木サレ之ヲ知ラサ
レハ其責任ヲ闕クヲ以テ必ス遣責ヲ

受ケ爲ニ科セラレナリ

若我カ管轄支配ニ非レハ此義務ヲ負
フヘカラス必ス之カ辭ヲ作り此義務
ヲ避ケ免ルヘシ此好ムヘカラサル責
任ヲ免ル、丁能ハサルハ己カ支配ナ
レハナリ

其訴ヲナスニ及テヤ某村領支配山内
云トト認出セリ

其内海ニ至ルヤ彼ノ差入タル一扎ニ
其村方支配山内或ハ其元殿所持山内
等ノ明文ヲ載セタリ

第五條

樹木伐取願ノ事

石割取願ノ事

土堀取願ノ事

土砂留普清止願ノ事

右等ノ事ニ付キ願ヲナスヤ全各村民
ニテ直ニ之ヲ為セリ勿論許可申渡モ
直達ナリ

此樹木ヲ伐リ石土ヲ取ント云フ者其
村内人民ナリ其願出ルモノハ村吏ナ
リ

其之ヲ取ント云フハ所有ナレハナリ
其村吏ノ願出ル所ノモノハ支配ナレ

八十

右之通ニテ全ク各村別區所有支配
ニ相違無御座候

依之ニ明治五年地券申請ノ際各村
規儀ノ上確定仕リ施行致シ候テ既
ニ三年ニ及ニ候

然ルヲ今般津田村ニ於テ一村所有
十リト申立地券請求ノ所ニ及ニ候

段甚以不條理ノ至ト存候間寫ノ御詮
議被成下度奉存候以上

明治八年十二月廿五日

兵庫縣下等二區

兵庫新在家町寄留

高知縣土族

中西省雄

堺縣參事兼七等判事

吉田豐文殿

論并書

原告辨述書及一条及一節山ノ所有者ニ付公ニ對シ地租ノ義務ヲ
尽スト云事

夫レ租ハ人ニ取ルニ非ス地ニ取ルモノナリ故ニ公ヨリハ直ニ其地ニ就テ之ヲ出サシム所有者ハ直ニ公ニ對シテ之ヲ出セルナリ

其之ヲ納ムルヤ順序アリ所有者ハ之
ヲ村吏ニ出シ村吏ハ之ヲ管廳ニ出セ
ルナリ

是故ニ村吏ハ畢竟唯其役務ニ因テ其
所有者ヨリ公ニ對シテ出ス所ノ租ヲ
取次キスルノミノ者タリ

其村吏ノ役務タルヤ其所有者ヨリ出
セル者ヲ取纏ノ斗算手數ヲ爲シ而ル

後管廳ヘ持出スヘキナリ

然ルニ其津田村ヨリ管廳ヘ出セルハ
其村吏ノ義務ニノ即取次手數ナリ其
実物ノ租ニ於テハ乃チ各村ヨリ直ニ
公ニ對シテ出セルモノニシテ津田村
モ其一分ニ居ル耳何ソ津田村ヨリ地
租ノ義務ト云フヲ得ンヤ
而シテ其取纏ノ斗算手數ハ各村立合

ニ非レハ独津田村一分ニテ之ヲ為ス
ヲ得ス故ニ各村立合ヲ以テ之ヲ取纏
メ斗算手數ヲ為シ而ル後始テ津田村
ヨリ管廳ニ持出セルナリ

其津田村一村ニ委セスレテ各村立合
ヲ以テ之ヲ為シ唯管廳へ出スノミヲ
一村ニテ為ス事是其故何ゾヤ即各村所
有ニシテ租亦各村ヨリ之ヲ出シ唯其

石高ノミ津田村ニ結ヒ有ルヲ以テナ

リ

其各村ヨリ區別ニ出セル租ノ濫觴五
ヶ村ニ於テハ家別割ヲ以テ定メタル
モノト見エ即元録度裁許ノ旨ニモ物
成ハ五ヶ村家別ニ割付ト有之既ニ改
府ニ於テモ閑知セラレシ事ナリキ

長尾村ニ在テハ往古五ヶ村中へ年々

一石一斗三升ヲ出シ立合ニタルカ終
ニ所有ノ權ヲ得テ現今ニ至ル迄實際
其行ヲ為セリ

而シテ今般津田村ヨリモ出セシ畧面
ニ赤色ヲ施シ限畧ヲ立一村ノ所有ナ
リト云ヘルカ如ク固ヨリ其他各村ニ
於テモ限畧有テ各村ノ所有タリ是乃
明治
五年決議シ各村ニ於
テ地券申請シ所以ナリ

并ニ前地並帳ニハ現ニ山ヲ掲載
シ決シテ分括所有アラス云々
并ニ前故ニ津田村人民ノ共有物
タル疑ヲ容レス云々

勿論既ニ石高ヲ其村ニ銘ヒ込タル上
ハ其村ノ帳面ニ記載セルハ固ヨリナ
リ然ルニ其地並水帖ノ面ニハ即

一字地ノ種類品位及別分米持主

如斯夫々順次ニ奉ケ其惣高ヲシノ上
ケ合テ更ニ又廉ヲ立永荒ト山役トラ
並載セタリ即

一九拾九石九斗三升四合 永荒

一拾七石六斗五升 山役

抑永荒トハ其地一旦荒レテ再ヒ之ヲ

起シ復タ奉ノ地所トナスヲ能ハサル
ヲ云フモノニテ全ク其実地ノ廢レタ
ルモノナリ之ヲ無地高共云ヘリ即其
高ヲ存スルモ実地ナケレハナリ

其之ト並ヘ奉タルモノ即其実地ノ全
部其村内ニ有ラスシテ唯其高ノミヲ
記入シタルモノナリヲ知ルヘキナリ
凡村内水帳ニハ其実地ノ所在持主等

ヲ知ラシカ爲丈々委リ記ス丁通例ナ
リ然ルニ其通例ノ如リナラサルハ唯
結ヒタル石高ノミヲ拳タルモノナ
レハナリ

即元録度裁許ノ趣ニ右山年貢拾七石
六斗五升津田村高ニ結ヒ有之ト有テ
能附合セリ若シ往古ヨリ津田村所
屬高ノモノナレハ津田村
山地ナリトカ或ハ津田村ノ高
地トカ明カニ有ルヘキ者ナリ

之ニ依テ唯其高ノ三津田村へ結ヒタ
ル者ナルヲ証スルニ足レリ
右ニ云ヘルカ如キノ故ヲ以テ通例ノ
如ク尽サ、ルナリ故ニ此帳面ニ就テ
其山ノ所在所有者等ハ知レサルナリ
各村ノ者邪惣ナキヲ以テ幸ニ論ナケ
レ氏元来各村ニ散在セル数ケノ山ナ
レハ此レ其レハ其高内ニ氷ス各別ノ

者ナリ往古ヨリ無租ノト云ニ争ヲ生
シタル氏ハ果シテ何ヲ以テ其高内ノ
山ナリト証スルヤ決シテ此帳面ニ依
テ証スヘカラサルナリ

第二條 出作小作ノ説

石高ト所有主トハ固ヨリ各別ニテ右
石高ノ有ルヲ以テ其村所有タルノ證

拠トハ万々ナラサルナリ而カシテ其
一ノ出作ノ説固ヨリ然リ甲ノ檢地帳
ニ於テ享品位及別分米持主乙吉或丙兵
備ナリト明カナルヘシ是通例ノモノ
タリ而シテ今般ノ山ニ就テハ檢地帳
有ルヲ無シ其水帳ニ於テハ前ニ年ス
ルカ如シ何カ此通例ノ法ニ称フタル
モノアリヤ決シテ有ルヲナシ

其ニノ小作ノ説ニ至テハ其當ヲ得ス
小作ノ事ニ至テハ其所有者ト小作者
ト双方ノ間ニ於テ相對契約ヲナスモ
ノニテ小作ハ未ナリ所有ハ本ナリ故
ニ小作セシムルモセシメサルモ其本
タル檢地帳ニハ關係セサルナリ依テ
其檢地帳ニ至テハ又其所有者ヲ明カ
ニ記セサルヲ得ス其本有テ未無キハ

アリ未有テ其本ノナキモノアラシヤ
其水帳ニ持主ヲ記載シナキヲ以テ此
説ヲ没ケ圖ニ附會シ以テ自然一村ノ
共有物ナリトス牽強モ亦甚シト云ベ
シ

第三條ノ事

此檢地帳ニ記載云々賣買手数云々等
ノ事ニ至テハ是普通ノ例ナリ然ルニ

此山ニ至テハ往古ヨリ連綿各村ノ所
有セシモノニテ其高ヲ津田村ヘ措
タルノニ元津田村高ノ山ヲ分割セシ
モノニ非ス又津田村ヨリ買受シモノ
ニ非ス故ニ津田村ニ於テ其手續ノ跡
ノナキヲ勿論ナリ

第四條ノ事

明治五年地券申請ノ帳簿決定ハ全ク

明確ナル者ニテ固ヨリ其効アリ

抑衆議ヲナスノ目的ハ其或ル事ヲ行
ニ爲ントスルカ爲ナリ而シテ即其所
有者相會議シ然クスヘキヲ決定シ
既ニ施行シテ其目的タルモノ成就ニ
至レハナリ

凡人民ニテ当然ナル契約ヲナシ既ニ
確定セシモノ政府ノ權ト雖此之ヲ破

敗スルヲ得可カラス然ルヲ況ンヤ
其自ラ契約確定セシ者ニ於テヲヤ
津田村ニ於テハ一村人民之ヲ知ラス
ト云何ソ之ヲ知ラスト云ヲ得ンヤ即
總テノ地券申受ルノ際其畧面ヲ裂シ
其地処ノ合帳ヲ作り且各人毎ニ所有
ノ別帳ヲ拵ヘ人々之ヲ以テ畧面ニ照
シ一々引合セヲ為セリ

縣廳ニ於テモ亦其村内ノ者出テ前ノ
如ク引合セヲ為セリ

此畧面即固ヨリ其一村限經界ヲ立テ

リ現ニ縣廳ニ
差上有之若シ此他ニ於テ所有山

アレハ何ソ之ヲ載セサルヲ有シヤ

其之ヲ載セスシテ出セルモノ乃各村

別區所有ニシテ此他ニ於テ已レカ村

ノ所有ナキヲ詳知スレハナリ亦以テ

証スルニ足ル

而シテ戸長ハ其村中ノ總理人ニシテ
亦其村中一分ノ人民ナリ損益モ亦其
身ニ係ル可シ果シテ已レ等ノ所有ナ
レハ此衆議ヲ起シ此決定ヲナシ其事
ヲ施行シ成就ナラシムコト有ンヤ

第五條ノ事

小作ノ証ナリ畢竟想像ニ出タリトハ

十二月八日ノ詔廷ニ於テ原告代言人
ノ自言セシ者ナリ何ソ辨ヲ俟ンヤ

第六條ノ事

前ニ云ヘル所ニ於テ明カナリ尤往古
ノ丁八年歴知ルヘカラス津田村ニ於
テモ其已ノ
所有セシ年度ハ知ラサルト雖氏固ヨ
ベシ知ラサルハ是実ナリト
リ各村限界有テ其長尾村ニ在ル所ノ
山田村ノ所有トハナリタルナリ改テ

山ヲ割キ更ニ限界ヲ立タリト云フニ
非ナルナリ

右論辨仕候通り各村別區所有ニシテ
決而津田一村ノ所屬所有ニ無之猶矣
除奥掘ニ依テ御詮議被成下度奉存候
以上

明治八年十二月廿五日

兵庫縣下等二區

兵庫新在家町寄附

高知縣士族

被意見人 中西省雄

堺縣參事兼七等判事

吉田豐文殿

被告申立口書

一小作ニ無之証拠ハ貢租ハ戸別ニ割
賦收納其割方ハ往昔取極リタル者
ニテ現ニ戸数増加スレヒ更ニ増減
無之候

右旧約之通各村ヨリ差出セルヲ取
經メ津田村ヨリ收納セル迄ニテ其
他之該村之部分ノミヲ支配致シ更

ニ他ニ関涉無之候

一野村ヨリ取立来ルハ津田村ニ於テ
別段ノ所以アリテ取立来ルト思料
仕候

一部分内ハ願窺届其外津田村ノ手ヲ
経ス直ニ上申官ヨリモ又摠テ直達
ナリ最モ大ニ証拠有之候事
前日申上候儀相違無御坐候

被告代人

一月廿九日

中西看雄印

小作請ト云フニ係ル

辨論書

小作請ト云フ事

是原告ニ於テ此山ハ津田村ノ所有ナ
リ被告村々ニハ所有山ナキカ故ニ小
作請ニ致セシモノナリト云フ今般訴
訟ノ大體主眼ナリ此他ニ於テ主意有
ルナシ

被告ニ於テハ各村別區所有ナリ決シ
テ津田村ノ所有ニ非ス況ヤ小作清ニ
非ルヲ以テ此主腦タル者ニ付テ陳述
スルノ外他事ナケレハ既ニ是迄此被
告ノ主腦タル者ノ確實ナルヲ明カシ
原告主腦タル者ノ嘘妄ナルヲ辯論セ
サルハナシ且小作ノ事ハ枝葉ニシテ
元來其相爭フ所ノ大體骨子タルモノ

ハ畢竟唯一ノ所有タル事ノミ故ニ此
大體骨子タル者ヲ明瞭ナラシメハ則
爭論已ニ氷解ニ至ルヘシ依テ今更
ニ此枝葉タル小作ノ事ノミヲ持出シ
來テ論セスレテ可ナルカ如シ然レバ
原告ニ於テハ被告村々ノ所有ナリト
云フ所ノ實際ヲ指テ小作ナリト云フ
カ故ニ自然所有ヲ爭フ一ノ道具ノ如

ク所有ヲ判スル一ノ証トスヘキカ如
キニ立至レリ已ムヲ得ナル也

然リトイヘ氏被告ノ陳述大體ニ於テ
ハ明治五年地券發行ノ際各村會議ノ
上確定セシ者ナレハ既ニ論スヘキ
無シト云フニ在リハ徒ニ人ニ性法ヲ與
ニシテ決シテ有ルハ眞也然レ氏其理
ニナシト云テ自他之ヲ破ルハ力ナ
条理ニ非ルモ猶如此而ルヲ況ンヤ然

テリスヘキノ条理ニ依而シテ猶其確定
セシモノ、弥妄ナラサルヲ証明シ
仮令明治五年會議決定ナキモ固ヨリ
各村所有ナリシヲナリト云フヲ以テ
ス故ニ此枝葉タル一ノ小作ノ事ニ至
テモ其証明スルノ内ニ籠レハ弥其非
ナルヲ辨スベシ

然ルニ原告代言人ノ陳述スル所時々

又覆シテ定ラサルヲ以テ答辯ニ甚苦
メリ然ルニ甚及覆スル所以ノ者ハ全
ク無根ノ妄説ナルヲ以テ如此ナリト
看做ガルヲ得ス故ニ先ツ其最初ヨリ
ノ陳述セシ所ト被告ヨリ陳述セシ所
等ノ手續ヲ拳ルモ亦其小作ニ非ルヲ
証スルニ足ルヘキ也

明治八年十一月十九日ノ^新決席ニ於テ

御審問ニ依リ原告代言人其訴状ニ添
テ差出タル箇面ニ就テ云此赤色ノ分
ハ津田村一分ノ所有ナリ其他ヲ被告
村々ヘ立合ニテ小作受ニセシモノナ
リ。野村ヨリ出セル一石七斗ヲ津田
村ノ利益トスルナリ。野村ハ外村ト
存シカラス此津田村ノ分界内ヘ立入
ヲ以テ一分出セルナリ。小作ノ証書

類ハ無之

十二月八日ノ御席御審問ニ依テ云山
ヲ貸タリト云フ証拠ハ無之畢竟想像
ナリト〇鏡テ云併ニ此山ハ津田村高
ニ有之公租上納ヲナス故津田村ノモ
ノナリ依テ地券ハ津田村ノ手ヲ経テ
受ヘキ理ナラント陳述中是全印形十
ケレ凡古キモノニテ亦申立ヲ補フニ

足ルモノナリトテ古キ書付ヲ出セリ
是ハ元禄五年付ニテ切レミニナリト
ルモノナレ凡願書ノ如キモノト
見留
タリ

是日被告御許ヲ蒙テ原告代言人ヘ尋

問ヲ為セリ
即チ二月十二日ニ差出タ
ル諭年書ニ在ル所ノ大體

テ以テ問答中ニ原告云公租ヲ上納スル
ハ津田村所有ナル所以ナリ被告云其
上納スル公租ノ実物ハ果シテ何レヨ

リ出セルヤ即其村ニ會シ五ヶ村連印
ニテ下振ヲ為セリ其村ニ帳面アルヘ
シ之ヲ見ハ直ニ判然セン原告云有リ
次ニ持出スヘシ併之ハ三宮ノ入目ニ
付テノ立合ナリ津田村へ各村ヨリ取
集ルハ小作清ナル故ナリ放是前言
ヲ喰ム被
告云各村ヨリ出セルモノハ即租ナリ
治子ニ非ス既ニ物成ハ五ヶ村家別ニ

割付トアリ其時固ヨリ官ノ所知ニテ
アリシナリ原告云官ヨリ割付ルモノ
ニ非ス人民下方ニテナセシモノナリ
被告云仮令官ヨリ割付ルニ非ルモ既
ニ官ノ知ル所ニシテ公然タルモノナ
リ何ソ小作ノ治子ナランヤ抑小作清
ニハ慣習ノ例モアリ何ソ一モ例ニ依
ルモノアリヤ元來山ニ就テノ所得ト

スルモノハ草木ナリ立木伐取ノナラ
サルニ至リシ而已ナラス普請ヲナシ
且毎年何十ト云木苗芝草等ヲ植付ル
ニ至シリ箇様ノ入費ヲ引受唯草ノミ
ヲ見附誰カ徒然ノ倂ニ小作シテ治子
ヲ出ス者アランヤ

其餘論ニ原告云畢竟勘定立會ハ權兵
衛カ来ルモ太郎兵衛カ来ルモ同一也

ト此意一月九日ノ答書ハ被告云決
トニ章中ニ持出レ来レリ

シテ不然彼村ノ年貢勘定ノ中へ他村
ノ戸長行テ取扱スレハ彼村ノ權ヲ犯
スナリ彼何トシテ之ヲ容ニヤ又行ク
者モ日ヲ費シ已レカ村ニ関セサルノ
世話ヲナス丁有シヤ

右十一月廿九日及十二月八日ノ陳述
ニ付テ被告ヨリ十二月十二日ニ差出

タハ辯論書之始ニハ訴ハ己カ或ハ權
利ヲ犯サレ云々訴サル先キ大體主意
ハ定リ云々故ニ訟タル以上ニ放テモ
変スルヲナシト云フヲ舉ケ而シテ小
作受ノ事ニ至テハ其証拠アルニ非ス
全ク想像ニ出タリト依テ更ニ年ヲ俟
タス小作受ニ非ルヲ明ナリト書キレ
ナリ然ル処

十二月十八日ノ原告并述書又五条ニ
小作受トシタル証ナケレハ小作受ト
ノ説ハ想像ナリト云々小作ノ証アル
トアラサルト歳分カ多キ云々ト書ケ
リ

同日御席御尋問ニ依テ原告云山ト云
フモノハ頗ル薄税故徳米ハ取ラス津
田村ノ利益ハ野村ヨリ取ル一石七斗

ナリト

被告曰廿五日ノ諭弁書ニ第五条ノ事
小作ノ証ナリ畢竟想像ニ出タリトハ
十二月八日ノ訟廷ニ於テ原告代言人
ノ自言セシモノナリ何ワ年ヲ俟ンヤ
ト書キシナリ然ル処

一月廿八日原告答書第七章中ニ小作
ハ想像ナリト自認シタリトハ決シテ

原告代言人ノ不知所ナリト書ケリ

曰廿九日御席御審問ニ依テ原告云小
作ノ徳禾ハ取レリ野村ヨリ一石七斗
ヲ取テ徳禾トスルナリ

野村ヨリ取テ他ノ村々ヨリ取ルニ当
ルハ即外村々ノ分界内ヘ立入下草ヲ
薙取ル故ニ他ノ村々ノ分ハ取レル記
ナリ

右小作清ト云フニ係ル大略ノ始末ナ
リ原告ノ陳述前後反覆シ又被告ヨリ
陳述スル所ノ妄リナラサルト其小作
ニ非スト云フノ大略ハ亦見ルヘシ
就中原告代言人ニ於テ小作ノ証拠ハ
無之想像ナリト自言セシトノ相違ナ
キ証拠ハ其言下ニ統テ地券ハ津田村
ノ手ヲ経テ受ヘキ理ナルヲ弁論セ

リ此論ニ及フハ其既ニ小作ト云フ
ノ消滅セシカ故ナリ若小作受ト云フ
消滅セサレハ何ソ此論ニ及フヘケン
ヤ即此論ハ一月廿八日答書第一
章ニモ一歩ヲ退ト云テ持出セリ此想
像ナリト云シトテ被告ヨリハ前ニ舉
ルカ如ク書冊ニ載タルトナルカ原告
ニ於テハ時々熟讀シタルトナル可シ
原告十二月十八日ノ弁論書ニ想像ト
ハ被告ヨリ云カケシカ如ク曖昧ノ文

体ニ書ナセシヲ以テ十二月八日ニ自
言セシモノナリトハ明書セシナリ
然ルニ一月廿八日ノ答書ニ自認セシ
ヲハ知ラサル所ナリト書ケリ自言ヲ
自認ト変シタルハ是亦意有カ否ハ知
ラサレト被告ニ於テハ想像ナキ能ハ
ス即言ト認トハ大ニ違ヘリ自言セシハ
アレト自認セシハ無シト云ンカ如シ
然ルニ今更事フト際限アルヘカラス
然ラハ今日更ニ小作ノ証拠アリヤト
問ハ々無ト云ヘシ然ラハ其証ナクシ
テ小作ナリトハ何ニ依テ然ルヤト問
ハ々如何ノ答アルヤ被告ニ於テ思フ
ハ其証拠ナクシテ小作ナリト云ハ々
全無根ナルモノニテ想像ナリト云ハ
サルヲ得ス想像ニ非レハ抑亦何ナル
ヤ

然凡若シ想像ニ非スト云フモ其唯口
ニ小作ト云フ而已ニテ証拠ナケレハ
其言ノ確實ナルヲ知ラス而シテ被告
村々ニ放テハ各自所有支配タルノ權
ヲ行ヒ義務ヲ蹈ム小作受ニ非ルヲ明
カナリ

原告代言人常ニ云彼畠面ノ赤色ヲ施
セシ分界内ハ津田村一分ノ所有ニテ

他村ノ者ハ立入シノスト是亦決シテ
不然ナリ即此亦色分界内ハ津田村一
分ノ所有ナリ其他モ如此各分界有テ
各村ノ所有ナリ此分界アルハ被告ヨ
リ証スル而シテナラス
原告ニ就テモ已ニ訴狀ニ小作請ニ有
之ヲ其区分ヲ以テ各地主ノ辨裁ニ付
クト書ケリツノ已テニ
區分アルハ判然タリ

此各村ノ所有ナルヲ各村ヨリ下草ノ
ミヲ互ニ薊取ルナリ何ソ津田村ノ分

挿入文書

山崎傳書

へ立入ルヲ許サ、ルヲアランヤ
原告初ニ云野村ハ他村ト違ヒ津田一
分ノ境界内へ立入カ故ニ別ニ一石七
斗ヲ出セリ是ヲ以テ徳トセリト後ニ
云フ野村ハ各村分界内へ入ルヲ以テ
野村ヨリ取ルモノ各村ヨリノ徳禾ニ
当ルト

ハ唯ニ石而已ニテ此他ニ於テ決シテ
有ルヲナシ故ニ毎ヲ俟サレナリ然レ
凡原告ノ後ノ言ニ依テ其妄説ナルヲ
弁スヘシ

果シテ原告ノ言ノ如ク津田村ノ所有
山ナレハ各村ヨリ出ス所ノモノハ年
貢ニハ非スレテ津田村へ取入ルヘキ
治子ナリ野村ヨリ出ス所ノモノモ亦

然り而シテ裔ク皆治子ナレハ其野村
ヨリ出ス所ノ治子ニヨリテ五ヶ村ノ
出スヘキ治子ニ差引斗算ヲナクヤ此
村ノ治子ヲ以テ彼村ノ治子ヲ差引其
出ス所ノ数ヲ減シテ必ス年貢ノ数ニ
合ハシム如此ノ小作未嘗テ開サレナ
リ

右小作ト云フニ係ル辨論ノ大略ニ候

獨御尋問ノ筋モ有之候ヘハ審ニ可申
上候以上

明治九年二月八日

被告代人

中西省雄

堺縣參事兼七等判事

吉田豐文殿

元録度取替一札

之辨

野村ヨリ差入一札

元録度取替一札ノ辨

津田藤坂杉穂谷尊延寺此五ヶ村立

會山地論之儀

設一

今度於京都御奉行

所被遂御詮議右山年貢十七石六斗

五并津田村高ニ浩有之

設ニ

其上物成

ハ五ヶ村表別ニ割付六十年餘以來
津田村へ取集候条^{設三}津田村可為山
本之旨蒙御裁許候

此另一段立會山地論之儀迄ハ次發端
題目ナリ

立會トハ立込入會フナリ立會山ト
云入會山ト称フ國処ニ依テ称呼異レ
凡其実一ナリ^入通常徒立會ト云ナリ立込

ラストイヘ凡山ニ就テ云ハ通常ニ
畧ナルモノアリ又唯立會ト云テ互ニ
山中ニ立入草木ヲ刈取ルナリ
含メリ尤用ニ処ニ依ルヘシ

故ニ津田藤坂秋穂谷尊延寺此五ヶ村
互ニ立込入會ニ柴草ヲ刈取ル其山地
論ノ儀ト云フナリ即其題目ナリ

然ルニ知ルヘシ其実際ニ因テ其題目
ノ起リシナリ而シテ其実際ハト問ハ
レ此時ニ在テ已ニ此以前ヨリ各村各

自ニ木苗ヲ植付土砂苗ヲナシ唯下草
ノミ立合蒔取りシナリ以下ノ文中
ニ明カナリ
此ノ二段右山年貢云々第三段其上物
成ハ云々トノ西段ハ津田村可為山卒
ト云シカ為ノ証拠ニ拳タレモノナリ
然シテ此兩段中ニ其要ニアリ
一ハ第三段ノ全文山年貢津田村高
ニ銘有之ト云フ一条ナリ

二ハ第三段物成ハ六十年余以來津
田村へ取集候条ト云フ条ナリ
三ハ第三段中ニ在ル物成物成ノ二
享上下ニ
用シハ五ヶ村家別ニ割付トアレ是
ナリ

此一ニノ兩要ハ自然津田一村ノ利ニ
シテ外村々ノ不利ナリ三ノ要ハ之ニ
反對シタルモノナリ

而シテ一二ノ両要畢竟唯一事ニ帰ス
其津田村へ取集候トハ其村高ニ結有
之^{ナリ}是^{ナリ}體ト云ヨリ出ル所ノ^{ソサ}用事ナレハ
ナリ

乃三ノ要ハ即年貢ハ各村ヨリ出セ
モノナルヲ知ルヘキナリ

然レハ則石高ハ津田村ニ結有之年貢
ハ各村ヨリ出スト云フニ過キナルナ

リ

山本ト云ヘルハ山主ト云フナ^{本家ヲ指テ}非

ス山ノ方モト云フナ^{本家ヲ指テ}非

然^{ノレ}所^ハ有^ルハ^本家^ハ或^ハ一^村中^ニ於^テ豪

富^且所^有モ^有リ^ス諸^事上^ニ立^テ事^ヲナ

ス^者ヲ指^テ村^ノ方^モ立^モト^云ニ^或

ハ^國政^ナリ^公事^ナリ^其他^善惡^ニ限^ラ

ス^教人^ニテ^為ス^ニ其^中ニ^於テ^專ラ^擢

テ^ハ工^ヲ踏^ムモ^ノヲ指^テ誰^役ハ^スモ

立^タル^者ナ^リト^云フ^カ如^シ

大^体ノ意^石山高^ハ津田村高ニ結有之

其年貢ハ各村ヨリ之ヲ出シ其年貢ヲ
津田村へ取集メ上納スル故津田村ハ
山ニ就テノ方モタレベシト云フノ意
ナリ

然ルニ山年貢十七石六斗五升トハ如
何ナレバ誤ニヤ或ハ山高ト云フノ誤ナ
ノ意ヲ以テ書セシモノナレバ知ル
可カラズ又十七石六斗五升ノ高ヲ納
メシハ往古ヨリ此十七石六斗五升ハ
リナキコトナリ

決シテ年貢ニ非ス是即山地ノ石高ト
云ヘルモノナリ年貢ハ即物成トアル
是也即津田村ニ在ル所ノ宝曆度ノ免
状ニモ高十七石六斗五升ト有之又此
取禾八石八斗貳升五合ト有之此八石
餘是即年貢所謂物成ニテ往古ヨリ今
ニ至ル迄増減アラサル也

以上本文中ニ於テ所有主ハ何レナリ

凡直ニ書載シ無シ以下文中ニ於故ニ
所有主ハ不可知カ如クナレ凡然レモ
判然タルモノアリ

抑地租ハ全ク所有主ノ望ス所ニモタルハ
世界同一般ノ確證ナリ然レテ物成即
租ハ五ヶ村家別ニ割付云々ト有之山
租ヲ此各村ヨリ出セルヲ以テ即各村
ノ所有ナルヲ弁テ俟スレテ明カナリ

又此時既ニ各村限界有テ別區ナリシ
ハ下文ニ銘々村々ニ於テ勝手ニナセ
シトノ有ヲ以テ明カナリ

六十年餘以来津田村へ取集ルト云へ
凡能々之ヲ反覆熟考スルニ其以前
ハ津田村へハ集メサリレナレ可シ即
六十年餘以来津田村へ取集メ候条ト
云フ明文直読シテ判然スヘシ何トシ

テモ猶其以前モ取集メタリト云フ意
ニハ讀ミ得サレナリ若シ其以前ヨリ
取集メシモノナレハ限ルニ六十余年
ヲ以テスヘカラサル也

取集ト云フハ取纏ト云ニ同ク取ルト

云ニ意味ナリ唯集ルト云フナリ俗語

唯急クナリ取急キ締ヲ取締結ヲ取結
扱ヲ取扱調ヲ取調ナト云カ如シ皆取
ルニ意味アリ
ルナシ

若津田村ノ山ニシテ内村ヘ取り入ル

々モノナレハ津田村ヘ受取トカ又ハ

取立トカ有ルヘキ也

其津田村ヘ受取ヘキモノニ取ス唯内

村ヘ集ムルノミノモノナルカ故ニ今

ニ至ル迄各村立會斗弄ノ上取集ル

ニテ其義務ハ各村ヨリ尽ス所也

津田村代言人ニ於テハ山奉ツ山主ナ

リト云フ姑ク其言ノ如クスルモ其可
為山奉ト云フ所以ノモノハ即右山年
貢云々物成云々ノ二段ハ既ニ前ニ云
ヘルカ如ク山高ハ津田村ニ皓有之年
貢ハ五ヶ村家別ニ割付ト云テ津田村
ハ山主タルヘシト云義何ニ依テセル
ヤ竹ニ木実ヲ皓フト云カ如シ
併シ此ニ段ヲ如何解スルヤ津田村高

ニ皓有之ト云フ丁ト物成ハ云々六十
年余以来津田村ヘ取集ト云フ丁動ス
ヘカラサレハ物成ハ五ヶ村家別ニ割
付ト云フモ亦動スヘカラス
前ノ二段ハ津田村ノ利ナシモノ故姑
ク置キ次ノ家別ニ割付ト云ヘルモノ
如何辨解スルヤ今日ノ言ノ如クナレ
ハ之ヲ小作禾トスルカ而ルニ小作禾

ヲ物成トハ云ヘカラス若姑ク小作米
ナリトスルモ已レカ一村モ米小作米
ヲ出スノ仲間トナレヘカラス若シ又
仲間入スルモ其小作米ヲ各村役人立
合斗算スルナリ有レ可カラス若又如何
ナレ縁故歟有テ立合斗算スルモ已レ
カ村ノ小作米モ一箇ニ集メ其数ニ増
減ナク其終上納ス然ラハ則別ニ年貢

ヲセセルモノナリ直ニ其領主ヨリノ
小作人ニ当レヘシ果シテ然ラハ其領
主ヨリノ小作人ハ即当今所謂所有主
ナリ

右ノ如ク五ヶ村ハ物成即年貢ヲセスノ
所有主ナリ然レニ其高ヲ津田村ニ
有之且旧村ヘ取集其上旧村ヨリ持参
シテ納ムル等ヲ以テ津田村カ山本即

山ニ就テノ方モタレモノナリ若山本
ト云フハ山主ト云フニテ即所有主ナ
ラハ直ニ山主トカ持主トカ書ヘキナ
リ又文意モ如何共書クヘキナリ山本
ト云フ山主ト云フナリト云フ例ナシ固ヨリ
世ニ許スヘカラス然ルニ原告代言人
ニ亦テハ畢竟有ナリト云フ之ヲ以テ
己ニ為村ノ所有ナリト云フ先入主
トナリ固着シタルヲ以テ山本トハ山
主ナリト思フナレハシ然レハ私心ヲ
去リ公平ニ本文ヲ熟視ス
レハ了解スルニ至ルヘシ

立木下草ハ古来ヨリ立會ニ無紛候
ヘレ四近年土砂苗ノ為立木伐取候
儀従御公儀御停止木苗植候様ニト
被仰也五甚趣ヲ相守只今ハ相互
ニ立木伐不申銘々村勝手ニ木苗ヲ
植立土砂苗仕下草斗苅申候六
為四段立木下草ハ古来ヨリ立會ニ紛
ナシトハ即地ハ前ニモ云ヘルカ如ク

各村ノ所有ニシテ唯立木下草ヲ互ニ
立會伐取タレヲ以テナリ若地仲間物
ナレハ無論其地ニ生スル一切ノモノ
勝手ニ所得トナスヲ得ヘキモノナレ
故殊更ニ立木下草ハ古來ヨリ立會ニ
紛ナシト書カスレテ可ナリ

又五段ノ被仰定トノ御達ハ明文ナシ
トイヘ凡各村へ直ニ達セラレタリト

ハ慥ニ知ラルナリ

即立木下草ノミ立會ニテ地ハ各村ノ
所有ナレハナリ

且其趣ヲ相守相互ニ立木ヲ伐ラス銘
々村勝手ニ木苗ヲ植立土砂苗セシ
リ既ニ限界アル現ニ實際ニ於テモ明ナ
リ

此御趣意ヲ各村相守リ土砂苗ヲ擔任

スルハ其各自ノ所有タルニ原キ直ニ
達セラレタル刀故ナリ

且此六段迄ノ文勢ニ独自タルノ気
象顯ハレタルヲ見ルヘシ

向後立木又ハ枝木ニテ毛伐候様ニ
ト御公儀並御地頭ヨリ御免被成候
ハ々五ヶ村共一同ニ土砂苗仕候村
勝手ノ通り立會伐取可申候少モ新

法成儀仕間敷云々

コノ五ヶ村共一同ニト云ヘルハ五ヶ
村共皆銘々ニト云ノ意ナリ即前段ノ
銘々村勝手ニ木苗ヲ植立土砂苗仕ト
云所ニ照應シテ五ヶ村共別區ニ木苗
ヲ植立土砂苗ヲナシタル通りニ立入テ
伐取ルヘシト云フナリ
コノ村々勝手ニ土砂苗
ニ即元是各我所有限
界内ナリ
時始テ立木ノ立會ハ止ミ
唯下草ノ

ノ立合ニ
ナレナリ

此処ニアル立合ハ本質ニ於テハ前ノ
ニニ異ルナシト雖モ其上ニ冠ラレ
ムルモノニ依テ其用異ナリ前ノニハ
五ヶ村ニ涉リ此立合ハ一村限り其限
界内ヘ立入ナリ
元録度ニ在テ猶如何ツ津田村ノ所有
ナリト云ヘケンヤ

野村ヨリ穂谷村ヘ差入タル一札

右一札ニ其村方山内支配地ニテ云々
トアリ而シテ津田村取喰ニ立入被下
云々トアリ以テ各村別區所有支配ナ
ルヲ見ルヘキ也

無題号

十四日別ニ差出セリ

一 津田村ニ於テハ野村ヨリ一石七斗
ヲ取利益ニ致候旨原告代言人ヨリ
申立有之候ニ付決テ左據ニ無之別
ニ可受取所以有之者ニ可有之段申
立候事

一其後若原告ヨリ申上候通ニ相成候
時ハ後日津田村ト野村ト之間ニ於
テ大十儿爭論ヲ生レ候儀可有之ト
存候旨申上候事

一被告村々ニハ兼テヨリ野村ニ於テ
ハ津田村地内ニ井路有之右ニ付一
石七斗ハ越シ穀トレテ差出候趣兼
リ罷在候故右原告申立ハ無根之儀

ニ付敢テ年シ申サハリシ儀ニ御坐
候

一然共原告ニ於テ強テ申立且津田村
ヨリ野村へ頻リニ立越談判ニ及候
由ニ付野村へ一應尋合候處同村副
戸長南耕吉儀申答候ハ大坂北濱一
丁目前川近三郎森井彦次郎等ノ宿
ニ於テ同人共申候ハ其村ヨリ差出

候三石七斗ハ錄乎米ニ受取候儀ト
思ヒ候如何可有之哉トノ事ニ付野
村ニ於テハ二石七斗錄乎米ニ有之
壹石二斗ハ越穀ニ差出殘ル五斗ハ
何ノ爲ナルヤ確ト不相覺候旨答候
處兩人共申候ハ然ハ壹石二斗ハ致
シ方無之依而二石五斗ハ錄乎米ニ
差出候モト致シ吳候様強テ頼出

候ニ付不得止其意ニ隨ニ候處書付
致シ吳候様申ニ付右兩人名宛ニテ
右之通ニ聞傳居候旨之書付相渡候
段答方ニ有之候事

一其後再尋合ニ及候處耕吉申候ハ津
田村ヨリ罷越先達テ壹石二斗ハ越
穀ニ差出候旨申候得共津田村ニ於
テハ左様ハ相心得不申併彌越穀ニ

出シ候モノニ候得ハ何カ証批ニテ
モ可有之此事ニ付官ヨリ御尋亦有
之候際曖昧タル事被申出候テモ相
海申間敷何分書類亦有之候ハ爲
見吳候據申ニ付然ハ調置可及返答
旨申差返候併野村ニ於テハ孰ヘモ
依佐ハ不致此上取調証批ヲ以可申
上之外ハ無之旨申答有之其内先代

庄屋役相勤候子孫之茂平ト申者呼
寄書類有之候ヘハ取調候據申聞候
儀有之候事

一其後又々尋ニ参リ候處副戸長ハ他
行ニテ居合不申石茂平方ニテ教人
寄合罷在候ニ付津田村ヘハ如何之
答方ニ相成候哉相尋候處其儀ハ戸
長ヨリ答候哉手前共ハ存不申併野

村之不勝手ナレハ兼知出来不申歩
破可申ト云ニ或ハ何レニテモ徳ニ
相成方ヘ付ヘリ或ハ津田村ト之喧
嘩ニ候故野村ニ於テハ掛リ合無之十
ト銘々ニ申立実着ナル答方ニモ無
之其場引取其上曰村甚太郎宅ニ於
テ曰人儀今一人之者速来リ申候ハ
内実ハ津田村ヘハ三石七斗ヲ録手

采ニ差出候旨之書付相渡候旨申出
有之候事

右ニ付テハ原告代言人ヨリ早晚右書
付ヲ差出可申儀ト被察候然共右之通
之情実ニ有之候故被告村々ニ於テハ
全ク津田村ヨリ野村ヘ強テ談判ニ及
ビ右之始末ニ立至リ候モノニテ正実
之事ニ無之其間多少曖昧成儀可有之

ト被稟候

一今般訴訟之大胼ニ於テハ申立候處
之条理有之隨テタトニ野村ヨリ受取
候儀有之候ト申ス儀有之候トモ又
大胼之条理申立有之候ヘ共右之始未
柄豫メ一應申上置候

明治九年二月十四日

中西角雄

一月廿九日申立ノ口書

一長尾村ハ沿革ニ因リ各村同様ノ權
ヲ有スル年度更ニ差認致サス乍去
明治五年各村合議ノ上地券分有ス
ルヲ基トシ尚溯リ觀レハ正徳以來
土砂苗等ニ付御達向ヲ始諸願訃届
一分ノ權アルカ如シ且元禄度取替

書ニ同村加入無之ハ當時一分ノ權
ヲ有シ傍觀セルヤ又ハ未タ部分内
ニ非サルヤ難分ナレト右不審ヲ推
紀セハ洽茅ト言ハサルヲ得サルノ
理由ニ候事

明治九年三月四日

中西盾雄

二月十四日ノ口書

一明治五年地券請求ノ際津田村寺院
ニ於テ原被各村正副戸長及各村總
代ノ者一員ト出頭合議ノ上各村
直ニ可申受ト取極メタル儀ニ有
之最モ津田村ニ於テハ村内ナルヲ
以テ多人數出頭致シタル儀ニ有之
候事

一右會議ノ節津田村ヨリ出頭セル人
員且姓名等取調ノ上可申上候事

明治九年三月四日

中西肴雄印

手続書

河内国第三大区四小区副區長

交野郡沓鋒村

藤本興三次郎

一私儀今八日御召出之上当區津田村
外五ヶ村ニ係リ候山地券書相受候
始末御尋ニ付左ニ

一此儀明治五年中地券御發令ニ付テ
ハ區内村々ニ集會之上取調向種々
談合居候内右六ヶ村ニ係ル山地券
之儀ハ各村自從ニ一通取調刀夕夕
趣役是咄合居候旨兼知仕候ニ付左

候ハ々追々村々篤ト示談可致様其
場申諭置候處其後穂谷村田畑地券
取調向ニ付出張仕居候處津田村副
戸長三宅栄太郎ト申着罷越山地券之
儀ハ今少し示談致兼候ニ付調向延
日相成候テハ如何戸長モ同様申居
候趣申越候ニ付其儀ハ延日相成候
テモ不苦様存候間篤ト示談行届候

上後日可取調是亦申諭置候處其後
地券取調向御改正相成候ニ付一斛
調向相延候ヨリ翌明治六年ニ至リ
集會之上村々へ地券成功之儀猪々
諭含候内六ヶ村戸長一日申含村々
正副戸長百姓代集會示談之上従前
実地仕未体裁ノ終一村毎ニ券書相
請候採取調へリ筈ニ示談取極候儀

ニ相違無御坐候最モ私ニ於テハ只
地券取調成功ヲ諭ス而已ニテ此外
山地ニ付何亦取調ホハ不仕候儀ニ
御坐候依テ此段申上^候以上

明治九年三月八日 右

藤本与三次郎印

辨駁書

原告一月廿八日答書ノ舛駁

天一章之事

元来訴訟ハ何ニ因テ起ルヤ何日迄モ
其主意ヲ徹スヘキニ一步ヲ退ト云テ
本訴ノ主意ニ背テ陳述スルハ何ソヤ
是元来訴訟所ノ無根妄説ナルヲ故ナ

リト云ハサレヲ得ス
租ハ固ヨリ地ニ取ルナリ故ニ其地ヲ
所有スル人之ヲ定セルナリ之ヲ定ス
モノニ所有ニ非スレテ何ソヤ

而シテ其貢租ヲ取集ルハ果シテ津田
一村ノ役義ヲ以テスルヤ否ヤ若一村
ノ所属ナレハ何ソ一村役義ノ權ヲ以
テ独立セサルヤ即旧来五ヶ村役義ヲ

以テ立合互ニ斗算取集ヲナシ唯廳へ
持参スルノミ是乃各村所有所属ナレ
ハナリ

各村所有所属ニシテ紛ナシ唯其租ヲ
合テ津田村ヨリ持参上納スルト云フ
本文ノ如シ何ソ抵触スル所アラシヤ

第二章ノ事

山役勘定ハ是レ主ナリ三ノ宮勘定ハ之

ニ尋テ合算スルモノナリ即勘定帖ニ
於テ明カナリ
立合斗算ハ便利ニ依ルト云フモ事柄
ニ因ルヘシ年貢勘定ハ村方第一ノ重
事タルモノナリ各村ニ於テ其權ト義
務トナリシハ何ソ立合丁ヲ得ヘケン
ヤ是亦各村所有支配ナルノ明証タリ
又何ノ些事ト云ヘケンヤ

※一章 若其説ノ如ク一村所管所有十
五ニ章
ラハ何故ニ一村独立ナル其村田畑年
貢ノ勘定ノ如クセサルヤ仮令三宮勘
定ト一処ニナスモ山地分ハ別區勘定
ニシテ一村独立ニナスヘキ苦ニ非ス
ヤ

地並水帖ハ全領主ヨリ実地檢點シテ
下ケラレタルモノニ非ス津田村一已

ニ製シテ唯眞印ノミヲ願々タルモノ
ナリ即本帳奥書ニ於テ明カナリ然ル
ニ此章ニ云ヘルカ如キハ此日差出タ
ル右帳ノ寫ニ眞書ノ文ヲ脱シテ領主
ヨリ調査シテ渡サレタルカ如ク見ユ
シ所ニ基テノ脱トハ見ユルナリ果シ
テ然ラハ元ニ誤アル何ソ末ノ論ニ及
バンヤ

高業上其他帳面ニ記載セシト雖共其
事由ニ至テハ概シテ云ヘカラス又支
々ニ就テ帳簿ハ製スルモノ也殊ニ地
所ノ帳簿ハ格別ナリ何ゾ之ニ比シテ
一概ニ云ヘケンヤ

地並水帳書裁ハ最モ分明ナラサルナ
リ即本文ニ云ヘルカ如シ故ニ此章ノ
如キ説ヲ起シ附會スルニ至ルナリ

然ルニ坐上ノ論紙面ノ説イカニ花義
ナルモ實際ニ称ハサレハ皆空論ナリ
能ク實際ヲ見ルヘシ果シテ津田村人
民共有物タルノ權ヲ行ヒ義務ヲ踏タ
ルヲアリヤ否ヤ此權ト義務トハ各村
別區ニ履行セリ

山役ハ惣シメノ外ニ在テ永荒ト並ヘタ
リ是固ヨリ其村高内ノモノニ非ス又

全部地其村ニアラサルカ故ナリ此通
理アルカ故ニ免状ニモ高外ニ記シタ
ルニ非スヤ

第四章之事

其遠ク隔テ々平野ニ在ル村ニ属シ其
近傍ノ村ニ属セサルヲ知リ得ルハ
何ニ因テ然ルヤ其實際ニ因ラサルヘ
カラス今般争フ所津田村ノ所有所属

タルノ實際何^グクニアルヤ唯漠然タル
道理ノミヲ以テ証スヘカラス即其説
ノ如ク千差万別概論スヘカラサレハ
ナリ

第五章之事

天然ト云フ^レ被^レ告ニ於テ知ラサレ也
然ルニ別區境界アルハ往古ヨリ然ル
也

此番面ト云ハ元録六年トアリシカ此
番ニ於テモ既ニ原告ノ云ヘルカ如ク
ナラス山脉絶シタルアリ又此番ニ限
ラス全脩番面ハ其時ノ入用タル肝要
ノ処ノ外ハ甚廉畧ナルモノニテ悉ク
實地ニ於テ寸分違ハサルハ絶テナキ
ナリ山ニ氷ルモ現ニ田畑屋敷等ニ氷
ルヨリハ原野沼荒等無用ノ処ハ須着

セス多キニ属シテ敢テ分別セサルナ
リ故ニ山多ケレハ山ノ部内ニ入タル
カ如ク見フルナリ

他村ノ境界内ニ津田村ノ田地有レハ
有テ可也是其原由有テ然ルナルヘシ
何ハ他ニ関係スヘケンヤ

津田村ヘ錯誤タルハ既ニ云フカ如シ
吾類例ノ有ルモ無キモ既ニ實際如ク

ナルヲ如何セシヤ

第六章之事

山地ニ関セサルヲ且些末ナルヲニテ
弁スル迄モナシ

第七章之事

想像自言ノヲハ既ニ弁セリ

右之通ニ御座候

明治九年三月八日 被告代言人

中西盾雄

山地券申請之事

明治五年地券御發行ニ付テハ屢會議
有之候処同年秋旧六區會議ノ終ニ於
テ穂谷尊延寺杉藤坂長尾津田六ヶ村
正副戸長並ニ正副區長ニ居残り山地
券ノ儀談議ニ及ニ候即山地ノ儀ハ固
ヨリ各村別區所有支配致シ候儀ニ付
各村ニテ其義務ヲ尽シ一切ノ諸入費

モ其村々ニテ相年シ諸願届等モ亦一
村限ニテ互ニ他ニ関係致サス畢竟山
役ヲ津田村ヨリ納候ノミニテ其上納
方ニ付テモ津田一村一己ノ取扱ニ無
之何一ツトシテ互ニ管制セラル々
無ク各村独自ニ處分致シ候儀是旧来
實際仕来リノ終ニテ今日ニ至テモ殆
カ異ナリト無之依テハ各村ヨリ直ニ

願之候儀当然ナリト決定致シ候事

此時津田村戸長ハ前川近三郎副戸長
ハ三宅采太郎ニテ有之候事

然ル処同十月三宅采太郎儀穂谷村會
議所へ罷越シ前川近三郎儀申分有之
候間山地券ノ儀ハ暫ク差扣呉候様申
出此折柄副區長藤本与三次郎儀卷會
セ候テ申候ハ既ニ決シ有之候事ニ候

又々申分有之トナラハ今日ニ取極
メ不申候共又篤ト謫合可然トテ差返
シ候事

同六年ニ至リ旧六區會議席ニ於テ六
ヶ村山地券ノ儀ニ付明日會議可致ト
申合セ左副區長ヨリ畠村々惣代ノ者
モ差出候儀可然ト差留有之其当日六
ヶ村正副戸長並ニ惣代及ヒ正副區長

參會ノ上又前議ノ如リ決定致シ候事
此時津田村長長云三宅嘉平副戸長ハ
三宅栄太郎ニテ有之候

右之通り決議ノ上各村ニテ取調ヘ各
村経界限ノ畧面ヲ製シ独自之願ニ及
ヒ地券申請候事

但シ惣テ地券請ノ儀ハ五年十月限

二有之候也其美六年二及口候事

其節々卷會人名

區長 長尾村 山中彦太郎

副區長 片鋒村 藤本与三次郎

津田村戸長 前川近三郎

旧副戸長 三宅采太郎

旧戸長 三宅嘉平

總代者不分

總答村戸長

南五市郎

旧副戸長 岡本新六

旧總代 谷口勘十郎

尊延寺村戸長
杉村兼助 深尾治郎八

旧副戸長 古田伊太郎

旧村總代 古田清太郎

杉村副戸長 市村藤藏

旧村總代兼常

藤波村戸長

藤井又太郎

同副戸長

猪熊九太郎

同村総代

家木庄太郎

長尾村戸長

寺嶋文治郎

同副戸長

逆田庄十郎

同村総代兼
兼
兼

大略右之通ニ御坐候

明治九年三月八日

被告代言人

中西肴雄

陳述書

另一条

一山地之儀ハ是迄モ上申仕候通別區
經界有テ各村所有支配ニ相逢無之
候ニ付長尾村馬前福藤坂村西村領
畠面山中ニ經界ヲ入レ別紙甲印ノ
通り其村へ書下ケ有之候

又二条

一右田斷ニ付其村ニ山廻役ト申者有
之庄屋年寄ノ田地民戸ヲ支配致シ
候役務ト同一ニ一村領山内ヲ支配
致シ領主ヨリ給料被下置有之即別
然乙卯ノ通り年々貢租ノ内ニテ差
引勘定致シ候若一村山内所有支配
ニ無之候ハ、領主ヨリ其村ニ於テ

別ニ山廻リノ役務被置候儀ハ無之候
ニ御坐候

又三条

一文久ニ戌年長尾村彦太郎儀所有地
續山内ハ溜池致シ候節村方ハ申上
候処彼是故障有之引継候ニ付其節
大庄屋役取扱ニ立入熟諒相調村方
ハ一札差入有之候右一札全文ニ於

テ其村支配山十儿事判然致シ殊ニ
著シキハ際目見斗石ヲ伏置丈ヨリ
莫ハ村方支配地ニ相違無之候ニ付
卿力ニテモ山林伐取候儀ハ勿論云
々ノ明文有之右取唆致シ候大庄屋
役ハ津田村前川近三郎ニテ莫書調
印ノ一札別紙兩印ノ通ニ御坐候
一是即村方ニ於テハ別區所有支配十

儿實際ノ取行致シ候モノニテ津田
村ニ於テモ固ヨリ兼知十儿儀判然
致シ候

又四条

一 菱意三外年長尾村ハ藤坂村領田地
ヲ買受溜池ニ仕リ右潰田地年貢除
去且右普請入用金御下渡ノ儀領主
ハ願々候処聞届無之村持山ノ内ヲ

總百姓割持ニ致シ其間ニ於テ方法
相立利益ヲ取り右潰田地年貢上納
方ノ手宛ニ致シ候様御利解有之別
紙丁印ノ通り被仰付候若村持山ニ
無之候時ハ右等ノ被仰付ハ相成不
申訳ニ御坐候

又五条

一又三条ヲ除クノ外皆領主ヨリ被仰

付候モノニ御坐候処已ニ右之通り
ニテ実地各村別區所有支配致サセ
唯其山役采而已津田村へ取纏メ同
村ヨリ納候様致シ有之候モノナ
リ判然致シ候

一右条々ニ申上候通ニテ是モ亦各村
別區所有支配ニ相違無之証拠ニ御
坐候已ニ實際右之通ニ候故迄シ合

上各村ニテ直ニ地番申請候儀ニ御
座候尚是迄差上有之候實際証拠ニ
御照シ被成下至当ノ御裁判奉仰候

明治九年三月十三日 被告代言人

中西角雄

陳述書

今般相争フ所ノ山地ハ本高入及小物
成ノ列如何御尋ニ御座候処全ク田畑
ノ如ク本高ニ入リ候者ニハ無之ト存
候其証佐ノ左ノ通ニ御座候

一久具家所領中ニ於テモ已ニ旧家ノ
本高ニハ有ラサリシ由兼傳ヘ候

一津田村地並水帳ニ十七石六斗五升

山役ト記載致シ有之候此拾七石六
斗五升ハ能々他ニ比較シ詮議仕候
処總テ山役ト称ヘ候ハ其山ノ體何
ヘ以山林ト云ニ冰スシテ上納スヘキ
モノニ係ル用何石何斗算加算ニ就
テノ称ニ候依テ山役ト称ヘ候ヲ以
テ已ニ本高ニ冰ル丁可知ト存候
但シ方今ニ至ル迄右半分八石ハ

斗貳升五合上納致シ来候儀ハ何
年度ヨリ右ノ通ニ相成候哉難相
分候ヘ凡想像致シ候ヘハ或ハ土
砂苗ノ事ニ依テノ丁ニテハ有之
間敷哉モ不可知ト存候

一右地並水帖ノ書我方辦裁ニ付テハ

既ニ十五日論年書陳述致シ候通ニ御坐

候然ルニ山役トアルハ独右帖面ノ

ミナラス免状皆済目錄等ニモ記載
セラレ有之候

一然シテ河内縣免状ニハ右山役ヲ高
外ニ記載セラレ有之全ク小物成ノ
躰裁ニ有之且其後元トノ拾七石六
斗五升ノ目ヲ癯シ直ニ八石八斗貳
外五合山役ト記載有之候

附言

一右之通本高内ノ者ニ無之全ク山役
米ヲ津田村へ集メ上納致シ来リ候
儀ニテ是乃兼テ申上候所ノ各村所
有ノ山役米ヲ津田村へ結ニ有之ト
申儀ニ的切符合仕候

一勘定帖中ニ有之斗搯ノ儀猶取調可
申上旨申置候處右ハ往古ヨリ仕来
リノ終ニ御坐候但諸搯リ入費ノ為

五ヶ村同等ニ割賦仕候モノニテ決
シテ津田村ノ徳益ニ致シ候モノニ
無之卽曰村ニ於テモ外村同様一部
分ノ割付ヲ受ケ候儀ニ御座候
一其津田村へ差引致シ候ハ卽山役采
上納ヲ曰村へ委子有之候ニ付是亦
同様勘定致シ候上委子置候モノニ
御座候

一右割賦ノ次乃且津田村ノ徳益トナ
ルヘキ哉否之儀ハ勘定帖面上ニ於
テ明瞭仕候取テ以テ論スヘキ者ハ
唯其帳面上ニ記載セシモノ而已ニ
テ之ヲ外レ候テハ論スルヲ得ヘ
キ者ニ無之候若シ此外ニ於テ論ヲ
起サハ則皆是穿テ設タル空妄ニシ
テ其誤據有ルヘカラス候

一然此ニ原告代言人ヨリ
三月十日差出
候書取ハ即牽強附會ノ説ニテ更ニ
弁スル迄モ無之充設ケタル空妄ニ
テ勘定帖ニ憑據スルヲ得サル別
説ニ御坐候

一野村申立ニ於テハ三月八日口供之
通ニ有之且之ヨリ先キ津田村ヨリ

度々及引合候上津田村領山地ニ候
故山年貢三石七斗差之候旨之證書
同村へ差入有之候趣ニテ原告代言
人ヨリ差出候

一然此右津田村ニ於テ猶且同村領
タルノ証拠無之況ヤ野村ニ於テ其
証拠可有之候哉果シテ其証拠無之
ニ於テハ全ク唯今日ノ人津田村ヨ

リノ掛合ニ依テ口上ニ言フノミ我
上ニ書スルノミニテ何モ津田村申
立ヲ補フニ足ル者ニ無之ト存候
一其三石七斗ニ於テハ全ク録手禾ニ
差出候モノニ無之録手禾トシテ貳
石差出其餘ハ津田村へ越シ穀禾等
ニ差出候旨被告村々ノ者共野村戸
長ヨリ兼リ罷在候且又津田村申立

ノ如ク惣テ旧村領山地ニテ三石七
斗ヲ受取来リ候儀ニ相違無之候へ
ハ今更野村へ及引合証書認メサセ
候ニ及間敷役是之年段全ク作為之
儀ト想像仕候

一野村ハ津田村焼谷へ立入候ヲ以三
石七斗ヲ取り候証拠有之候トテ原
告代言人ヨリ申立有之焼谷ハ穂谷

村領内ニ有之海老子ト称候僅ノ場
所ニ御坐候ガ果シテ其申立ノ如ク
ナレハ野村ニ於テモ兼知可罷在若
ニテ其他ノ場所ニハ一足モ踏入ヘ
キ訳ニハ無之候処既ニ早クヨリ右
場所ニハ可刈取下草無之其他之処
ニ於テ刈取罷在津田村ト野村トノ
間ニ於テ如此鉏鋤ヲ生候此鉏鋤致

候所即真正之儀ニ無之ヲ以ノ故ニ
御坐候

一津田村ニ於テハ野村ハ津田領部内
ヘハ立入不申事ニ取極以テ穂谷村
焼谷ト申称候場処ヘ立入候鎌手采
ヲ取利益ト致シ候ニ付総山所生ナ
リト申立候为ノ科ニ可致所存ト被
察候然共野村ニ於テハ何レ之部内

へ立入候テモ不苦心得之旨申出有
之候是鉏鋤仕右同断ニ御坐候

一野村ニ於テノ申立且証書ハ今般訴
訟相起リ津田村ヨリ切々及引合候
以後ニ於テ書取且申立候モノニ御
坐候但既ニ天保年中野村ヨリ穂谷
村へ差入候一扎ニ其御村方山内支
配地ニ於テ云々津田村取暖ニ立入

被下云々ト有之候

一総シテ争事詞訟ヲ判スルハ其平穩無
事ノ時ニ成リタルモノヲ以テスル
ノ外無之ト存候但天保年中之頃ニ
於テハ六ヶ村共何ノ可論事モ無之
平穩和熟ノ時ニ有之候今般津田村
訴ヲ起シ候
迄モ亦平穩和熟ナリ故ニ六ヶ村熟
該之上各自地券申受ニ及ヘリ
其平穩和熟之時熟レハモ依估員殿

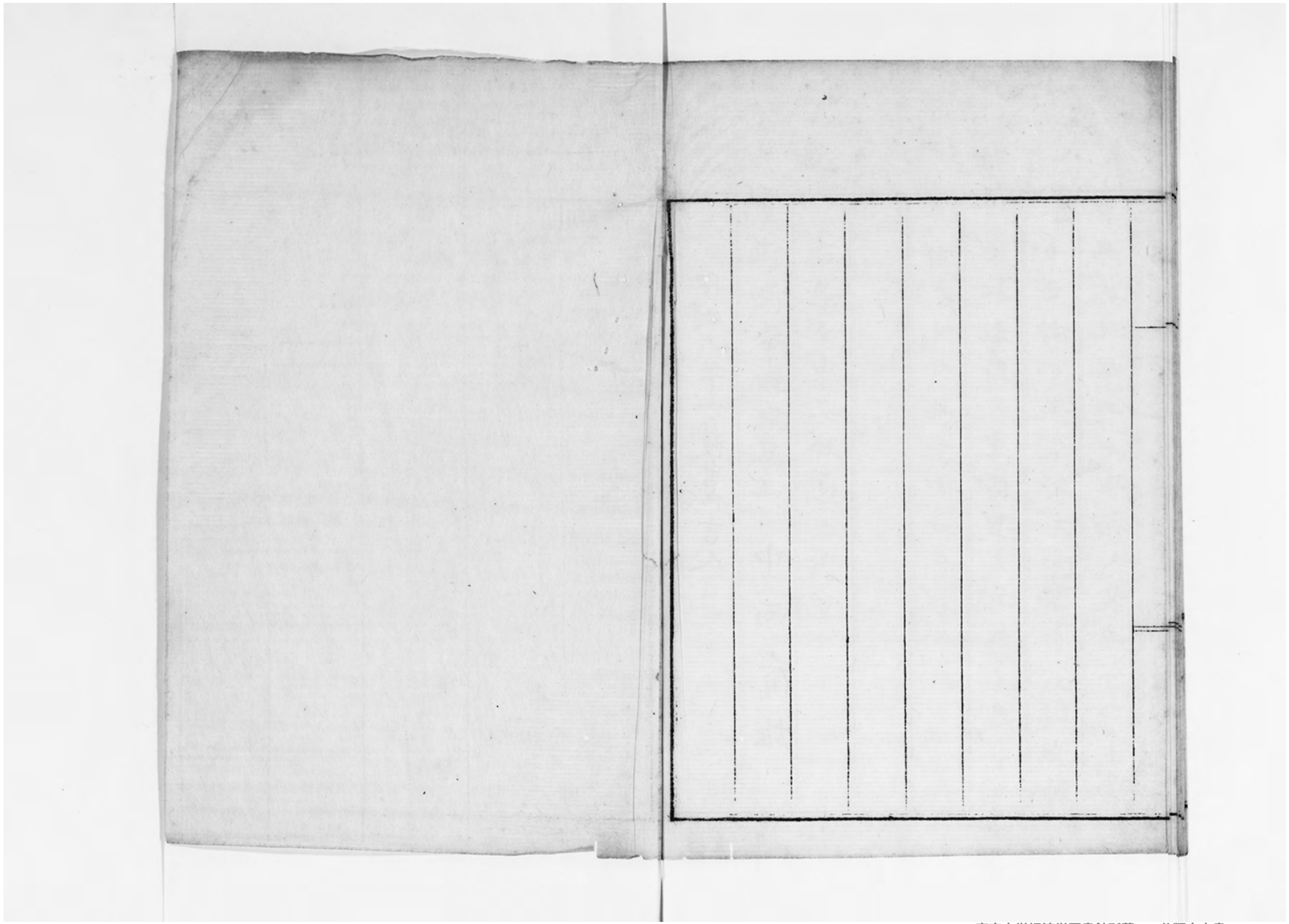
無之公平心ヲ以認メタル一札ト今
日爭論ヲ生シ津田村ヨリ及川合候
テ以後忍メ且陳述スル所ト熟レカ
信ニシテ且堅キ哉并ヲ不候ト存候
右条々申上候通ニ御座候間此上御
明断奉候様以上

明治九年四月五日



被告代言人

中西盾雄



経済

26